

倉吉打吹地区

(鳥取県 倉吉市)

計画期間 平成 17 年～21 年
 面積 100ha
 交付対象事業費 382 百万円
 市人口 52,212 人 (地区内人口 5,905 人)

ポイント

倉吉打吹地区は、歴史的資源が豊富に残されており、官・民がそれぞれの役割を果たし、歴史的資源を活用したまちづくりを推進している。

目 標

伝統的建造物群保存地区内で発生した火災による空洞化や、近年多方面から注目されつつある大阪淀屋と深いかかわりのある倉吉の豪商淀屋牧田家ゆかりの町屋(倉吉最古)の取り壊しなど、倉吉打吹地区の様々な危機を克服し、倉吉市のまちづくりのキャッチフレーズである、「遙かなまち倉吉～ほんものに出会えるまち(本物志向)～」の取り組みを通じて、地区の活性化を図る。

指標(まちづくり交付金)

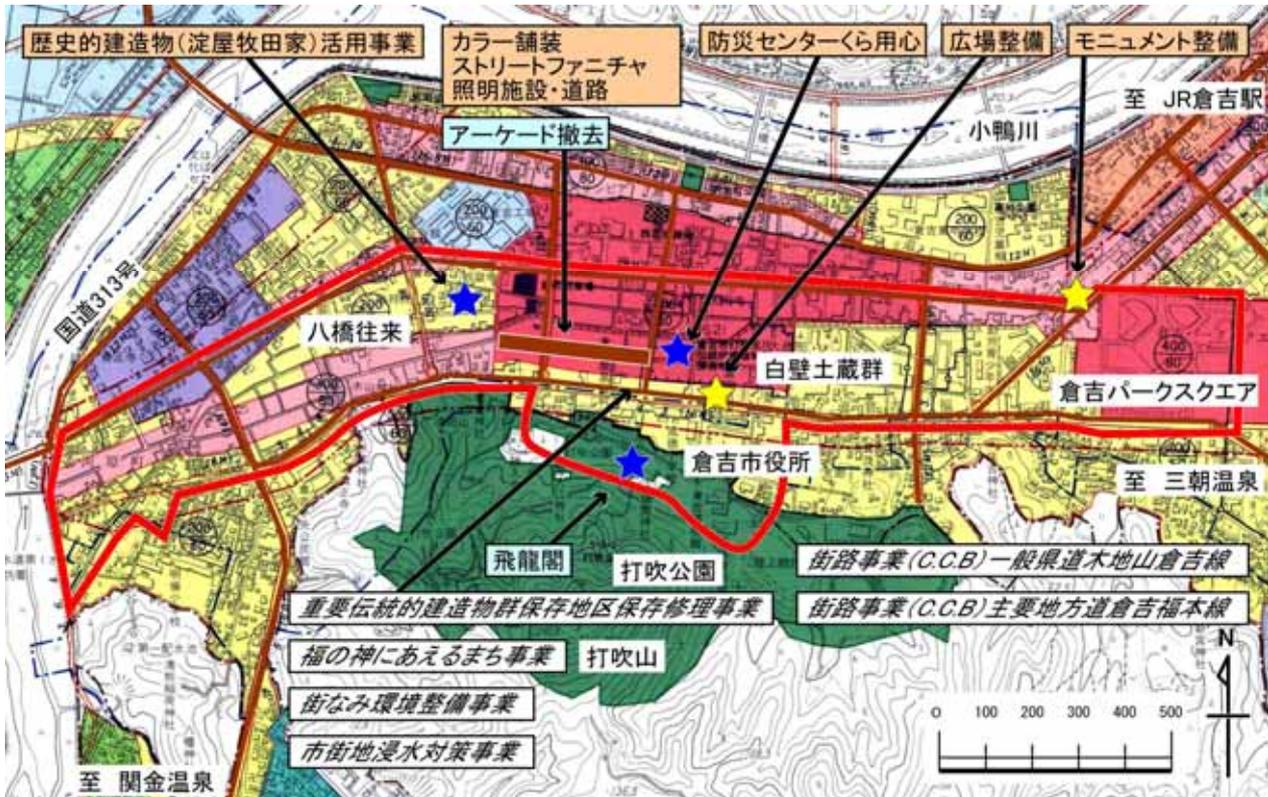
木造建築物が密集している本地域に不可欠な防災活動、地元のみまちづくり活動、近年来訪者が集中するようになった鳥取県中部屈指の観光地である、赤瓦・白壁土蔵群への来訪者数の増加を指標とした。

防災活動の参加者	100 人 (H16)	400 人 (H22)
淀屋牧田家再生プロジェクト会員	60 人 (H16)	240 人 (H22)
年間観光客数	30 万人 (H16)	50 万人 (H22)

事業内容

【基幹事業】337 百万円 道路(側溝整備 延長 200m)、地域生活基盤施設(広場:1 箇所 1,200 m²)、高質空間形成施設(モニュメント整備:1 箇所/カラー舗装:1,500 m²/照明施設:10 基/ストリートファニチャ:ベンチ 3 基、道標 2 基)、既存建物活用事業(火災跡地:防災センターくら用心の土蔵 3 棟ほか/淀屋牧田家:2 棟 680 m²)

【提案事業】45 百万円 地域創造支援事業(アーケード撤去:延長 300m/飛龍閣:既存建物活用 1 棟 178 m²)



地区概要

火災跡地の復興、まちなみ保存・活用の推進、来訪者を倉吉打吹地区に誘導し、回遊性を高める取り組みを行っている。

地区の現況と課題

倉吉打吹地区は、豊かな意匠をもつ町家が連なる本町通りや、白壁の土蔵と石橋が並ぶ玉川沿いなど、歴史的景観が数多く残されている。

【伝統的建造物群保存地区】倉吉市は、倉吉打吹地区の一部 4.7ha を伝統的建造物群保存地区に選定した。地区住民は、文化財保護の補助金を活用し、自己の建物の修理・修景を行っている。(平成 18 年度末現在で 53 棟の修理・修景が完了)

【町屋の活用と福の神】株式会社赤瓦などは、歴史的建物を活用した個性的な外観の飲食物販施設を整備し、来訪者をもてなしている。あきない中心倉は、「福の神にあえる街」というコンセプトで、福の神(木製の彫像)の設置など、地域活性化のため取り組みを行っている。

【火災復興と防災の取り組み】倉吉市は、市民などから寄せられた義援金にて火災跡地の一部を購入し、防災センター「くら用心」を整備した。倉吉町並み保存会は、自主防災のための組織を結成し、消防設備の確保・維持や年 4 回の防災訓練などを行っている。

【淀屋牧田家再生プロジェクト】住民は、大阪で再興を果たした大阪の大商人淀屋と深いかわりのある倉吉の大商人淀屋清兵衛の不屈の精神を後世に伝え、まちづくりに活かすため、淀屋牧田家再生プロジェクトを結成し、定期的にサミットの開催などを行っている。

提案事業の特徴

【アーケードの撤去】倉吉市は、本町通アーケードについて、老朽化が進み抜本的な対策が必要となっていたことから、撤去とあわせて未整備である下水道・道路側溝の整備について提案した。住民は、アーケード撤去を前提とした景観形成を図るためのまちづくり協定を相互に締結し、撤去後の景観形成に取り組む。

計画策定プロセス

【回遊ルートの検討】地域住民と倉吉市は、国土交通省中国整備局の夢街道モデル地区の認定を受けたことを契機に、打吹地区歩行ネットワークの検討を行なった。倉吉市は、検討に基づき、側溝美化、自然色舗装、ベンチ・道標・照明施設などの設置を行なった。

【まちなみの検討】八橋往来まちなみ研究会は、街なみの保存・修景について、活発な検討を行なっている。倉吉市は、検討に基づき、平成 18 年度から街なみ環境整備事業による修景事業に着手した。

倉吉市長長谷川稔氏のコメント

予想しなかった様々な困難に直面し、もうだめかと思うことが何度もありました。しかしながら、寄せられた多くの浄財や、市民活動の盛り上がり、国土交通省をはじめとする関係者皆様の有形・無形の支援により、なんとか困難を克服し、倉吉の将来に必要な取り組みにつなげることができました。

官・民それぞれが、自らがすべきことを、責任を持って着実に果たしてきていることが、今回の受賞につながったように思います。



防災センター「くら用心」と可搬式ポンプ



左:修理・修景が施された土蔵を活用した店舗
右:株式会社赤瓦が整備運営する赤瓦1号館



約 40 体の福の神が設置されており、福の神をめぐるスタンプラリーなども開催される。



火災直後の様子と、防災訓練



左:市長と童門冬二氏の対談(淀屋サミット)
右:淀屋牧田家復元模型(くら用心に展示)



左 2 枚:アーケードに立派な町屋が残っている。
右:長谷寺の観音市では、多くの人で賑わう。



回遊性向上のため 道標、ベンチ、案内板を設置。デザインは地元NPOが担当。材料は地元のものを使用。



八橋往来まちなみ研究会による検討の様子